

2021年6月4日

関東地区地域協議会 御中

公益財団法人 国際人材協力機構

技能実習制度及び地域協議会に関する意見提出

当機構は、監理団体、実習実施者に対して、技能実習生の受入れの相談、申請書類の書き方の助言等、総合的な支援を行っている公益法人です。当機構が各種支援を行う中で、技能実習制度及び地域協議会構成員各位に対する各種意見・要望が監理団体等から寄せられておりますので、それらを踏まえ、当機構の意見として提出します。

1. 外国人技能実習機構（OTIT）関連

(1) 受検支援に関して

受検支援システムについて受検の可否の検索が簡単にできず使い勝手が悪いことや、外国人技能実習機構と試験実施機関との連絡調整が不十分なため受検の可否の結果通知が遅くなっているとの声があるため、その改善をお願いしたい。

(2) 調査・統計に関して

外国人技能実習機構のホームページに平成29年度及び30年度及び令和元年度の「調査・統計」が公開されているが、今後とも技能実習制度の運用状況が把握できる有用な各種統計データの公表をお願いしたい。

(3) その他制度運営に関して

① 運用要領の改正があった場合は、制度活用者において加筆、削除等の箇所が容易に確認できるように運用要領全体版の見え直し修正版を掲載していただくようお願いしたい。

また、「よくあるご質問」（除：介護職種関係）についても、新規、削除及び一部修正等が行われた場合、見え直し修正版を掲載していただくとともに、ホームページのお知らせ欄に掲載するなど、更新がなされた都度お知らせいただくようお願いしたい。

② 移行対象職種について、作業定義等の審査基準が変更された場合のA

ナウンスが不明確であり、技能実習計画認定申請等に影響が及ぶことも想定されることから早急に対処をお願いしたい。

2. 厚生労働省関連

(1) 技能検定等の受検体制関連について

技能検定等の受検に関して、監理団体等から実習現場で困難を来しているとして、次のような声が寄せられている。

こうした状況を踏まえ、技能実習生の受検機会拡大等のため、行政として技能検定試験・技能評価試験の体制構築をお願いしたい。

- ① 技能検定委員等の確保について、自前で遠隔地まで探すなど困難を来している（ハム・ソーセージ・ベーコン製造職種、ニット製品製造職種、工場板金職種等）。
- ② 受検場所の確保について、受検地が他県の遠隔地になり、開催頻度も不足するなど困難を来している（建設機械施工職種、そう菜製造業職種、溶接職種等）。
- ③ 実技試験の際使用する機械設備・器具等について、現在使われていない旧式のものとなっていたり、購入先についての適切な案内がないなど苦慮している（金属プレス加工職種、プラスチック成形職種、工業包装職種等）。
- ④ 受検申込みの調整対応について、各都道府県職業能力開発協会・試験実施機関の日程調整が遅いことや、各都道府県職業能力開発協会により受検手続き等が異なることなど苦慮している。
- ⑤ 試験内容については、難易度が高すぎたり（建設関係職種、プラスチック成形職種、溶接職種等）、試験内容と実際の作業にずれがあり（建設関係職種、電子機器組立て職種、工業包装職種等）、苦慮している。
- ⑥ 過去問等の教材について、過去問の開示が少ないことや、過去問の開示状況が職種により差があることなど、不十分である（婦人子供服製造職種、機械加工職種等）。
- ⑦ 受検料が材料費等も含め高いことに不満を持っている（婦人子供服製造職種、塗装職種、溶接職種等）。

(2) その他制度運用について

- ① 運用要領の改正があった場合は、制度活用者において加筆、削除等の箇所が容易に確認できるように運用要領全体版の見え消し修正版を掲載していただくようお願いしたい。

- ② 移行対象職種について、作業定義等の審査基準を変更した場合のアナウンスが不明確であり、技能実習計画認定申請等に影響が及ぶことも想定されることから早急に対処をお願いしたい。
- ③ 「技能実習実施計画書モデル例」が現行の審査基準と合致していない（更新されずに旧内容がそのまま残されている職種が少なからず存在し、審査基準に従って作成した計画案が OTIT の審査で「モデル例」と異なっているとして書き直しを求められることがあり、逆に「モデル例」に従って作成した計画が OTIT の監査段階で指摘を受けることもある）ので、その改善をお願いしたい。

※公開の可否：公開可

以上